

平成27年度 第1回多摩区地域福祉計画推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成27年6月17日（水）13時00分から14時35分まで	
開催場所	多摩区役所6階 601会議室	
出席者の氏名	委員	<p>柴原君江（田園調布学園大学参与）</p> <p>有北いくこ（NPO法人 ままとんきつず理事長）</p> <p>白石大樹（多摩区地域自立支援協議会）</p> <p>三竹隆雄（多摩区町会連合会副会長）</p> <p>岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会副会長）</p> <p>山口正芳（長沢・南生田地区すこやか活動推進委員会代表）</p> <p>森本千恵美（区民委員）</p>
	事務局	<p>中村健（多摩区医師会会長）</p> <p>青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会 会計監査）</p> <p>菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター長）</p> <p>初田温子（区民委員）</p> <p>川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課長）</p>
欠席委員	<p>清水伊都子（菅第1地区民生委員 児童委員協議会副会長）</p>	
議事	<p>（1）第4期多摩区地域福祉計画の主要な取組 平成27年度の取組計画</p> <p>（2）その他 次回日程</p>	
傍聴人の数	0名	
配布資料	<p>会次第</p> <p>第4期多摩区地域福祉計画平成27年度の主要な取組について</p> <p>資料1～8 各課の取組計画</p> <p>資料9 多摩区地域福祉計画推進会議開催運営等要綱</p> <p>資料10 第4期多摩区地域福祉計画スケジュール</p>	
	<p>冊子</p> <p>第4期多摩区地域福祉計画（完全版・概要版）</p> <p>川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン（完全版・概要版）</p>	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (林所長)	第1回地域福祉計画推進会議 開会の挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況。新委員、新事務局の紹介。 ・資料の確認 ・計画期間の延長について ・会議の位置づけが委員の委嘱を必要としない懇談会へ変更 ・柴原委員を座長とする案の提示
委員全員	異議なし
事務局	進行を柴原委員にお願いする。
柴原委員	議事の基本目標1について事務局から説明を願う。
事務局	資料に基づいて説明
柴原委員	何か質問はあるか。
山口委員	地域包括ケア連絡会議のうえに地域ケア連絡会議があるのか。
事務局	ケアセンターで行うものと、区で行うものがある。
山口委員	私も出席している地域包括ケア連絡会議の委員が固定されている。啓発という意味では同じメンバーだけが情報を共有して、幅広く周知されてないのではないか。会議で決まったことをすぐに実行に移せる人が適任ではないか。
事務局	手持ちの資料では会議のメンバーを確認できないが、持ち帰って担当者と検討する。
森本委員	地域ケア会議、地域包括ケア連絡会議に関する平成27年度の取組内容に、地域課題を共有し抽出すると説明があったが、地域課題をどのようなかたちで解消していくのか。民生委員などが住民と接して問題を解決していくのだろうか。そもそも、多摩区としてどのようなことが課題としてあがっているのか。
事務局	<p>7つの支援センターから課題があがってくるが、多種、多様、個別的なものが多い。民生委員、町会、支援センターの方々など大勢で話し合い、抽象的ではあるが高齢者世帯が増えてきているという課題がある。その点を区としてどうやってケアしていくのか、多くの課題としてあがっている。</p> <p>地域包括ケア推進ビジョンをふまえて、センターや行政の会議などで話し合っていきたい。</p>
柴原委員	地域包括ケアシステム推進ビジョンは今までの活動がベースとなると思うが、ここで終結して新たな取組をするということもあるのか。
事務局	<p>基本は今までの活動のベースである自助互助、地域での支え合い、助け合いができる地域づくりが必要で、それに向けてすでに取り組み始めている。</p> <p>具体的には在宅医療に関する活動をしているチーム・たまの活動が挙げられる。中村委員を中心にチーム・たまの活動をしているが、中村委員から何か意見はあるか。</p>
中村委員	川崎市地域包括ケアシステムについて、市と区の関係はどのようになっているのか？多摩区が独自に活動できるのか。それとも、市の意向に沿ってやっていくのか。
事務局	市が定める推進事業の理念に基づいて、各区一律ではなく、区の特性を活かしながら取り組んでいく。特に多摩区では公園体操など、たくさんのボランティアに協力してもらっており、今後も地域の特性を活かしてすすめていきたい。

発言者	発言要旨
中村委員	<p>市の会議と区の活動との連携がとれていないのではないかと。市の会議に参加している多摩区の人たちは、その場の会議の中で話しているだけで、区まで話が浸透しない。</p> <p>チーム・たまは地域包括ケアシステムとは関係なく、数年前にスタートした。ヘルパーやケアマネジャー等で協力して看取り（セレモニー）をすすめてきた。当初は市から協力を得られなかった活動も、今では区民から支持を得られるようになった。このように、区独自の活動を進めてもよいのではないかと。</p>
柴原委員	他に何か質問・意見はあるか。
有北委員	<p>地域包括ケアシステムはすべての地域住民が対象なのか。高齢者が中心になっているように思える。地域福祉ネットワーク事業はとても大事な事業だと思う。この事業がうまく機能しないと地域福祉関係者間の連携も取れない。</p> <p>事業概要に区社会福祉協議会との連携強化とあるが、27年度の実施内容をみると防災イベントの報告、懇談会となっているが、いきいきと動き出すような、もう少し踏み込んだネットワークづくりが必要ではないかと。</p>
事務局	高齢者が中心のようだという意見があったが、市が策定した推進ビジョンでは全ての人を対象と位置付けている。
柴原委員	他に何か質問等はあるか。
中村委員	川崎市は高齢・障害課があり、とても力を入れていることはいいと思うが、高齢・障害課と地域保健福祉課の線引きはどこにあるのか。
事務局	来年、組織改革があり変更する点もあるかと思う。現在は高齢・障害課、地域保健福祉課と連携をとりながら、地域包括ケアシステムについて進めている。
柴原委員	次に基本目標2の説明をお願いします。
事務局	資料に基づいて説明
柴原委員	今までのところで何か質問はあるか。
岡本委員	自宅近くの公園体操、いきいき体操に参加している。開催にあたって地面の安全性が確認できなければ許可されないと聞いたが、実際参加しているところは、植木が茂っていて、落ち葉などを清掃してからでないとい体操ができない。安全性に不安があったり、清掃後の体操となると参加者も減ってしまう。管理、安全面をもう少し強化してほしい。
事務局	公園体操は、基本的に自主的な活動としてサポートしている。公園など公共の場で安全性が保たれていないのであれば、こちらから道路公園センターへ働きかけたい。
柴原委員	次に基本目標3の説明をお願いします。
事務局	資料に基づいて説明
山口委員	（地域福祉啓発事業について）助ける、助けられるという支え合い活動をかりがね台自治会で実際に行っているの、シナリオ作りの参考にしてはどうか。
事務局	ありがとうございます。
菅野委員	（資料8の区民意識アンケート調査報告書について）地域活動に参加しない理由として、きっかけがないという回答が多いことに驚いている。きっかけがあれば地域活動をやるのか、地域福祉啓発事業のようなどころへつながっていけば人材はまだいるのかと、率直な感想を持った。

発言者	発言要旨
事務局	地域活動を行っていない4割の人が、きっかけがないと理由にあげている。地域活動、市民活動に出会う場が必要かと思う。今年度の事業の中で、このような取組を知らせていくことが大切と考えている。
事務局	資料8のアンケート調査は多摩区民2000人（外国人を含む18歳以上の方）を対象に行い、900人弱の回答を得たものである。
初田委員	地域活動を行っていない理由に関連してだが、行政との協働で地域課題を解決する担い手が固定化している。活動している人はいくつもの活動に参加して、楽しく、生きがいにもなっている。時間がない、きっかけがないという理由の中、どのように広げられるのか。人材育成という言葉はよくわかるが、私は自分を人材だと思う人は少ないと思う。言葉の使い方、ニュアンスを変えてみたらどうか。
有北委員	<p>長年、人材育成に携わっているものとして、自身や地域福祉に関わる人を人材とは思っていない。人材育成は行政の言葉だと思う。実際活動している人も、自発的にお互い助け合いたいと思っているので、地域社会、人材と言われると他人事に思えてしまう</p> <p>昨年、子育て、孫育て、ネットワーク作り事業で父母にアンケートを実施した。相談相手は、家族、友人、インターネットやSNSで行政には相談しないという結果になった。悩みを外に出すことができるような場が必要だと思い、この事業を続けている。少しずつ自分たちで自助のカウンセリンググループなどを作る動きにつながっている。</p> <p>地域活動に関して、きっかけがない、情報がないということがとても大きい。あなたは何をしてください、と一人ひとりに要請するようにしないと人材は増えないと思う。人材育成の事業が更に具体的な形になっていけばいいと思う。</p>
柴原委員	ありがとうございました。
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。人材という言葉はなかなかうまく伝えづらい、というふうに考えていた。人材育成に関して、今年度の取組みの中で皆様に手にとってもらえるような情報誌のようなものを作っていこうかと思っている。</p> <p>市民活動団体の紹介やお手伝いしていただける方の募集などを、広報していきたい。大きな人材ではなく、個人が持っている小さなこと、経験をいかしてみませんか、などと広報していきたい。</p>
森本委員	<p>もっと平易なアピールが必要だと思う。イベントの時だけでなく、恒常的に人が集まる場所で常時提唱していくことが大切だと思う。</p> <p>地域課題解決につなげる地域人材育成事業という事業名称のうち、「地域課題解決につなげる」という部分は必要ないと思う。行政は、あらゆる市民活動団体、生涯学習団体の人へ、地域課題解決に関わってほしいと思っているのではないか。始めから、参加する人が行政側に立って地域課題を解決するために人材を提供するとは誰も思っていない。人材育成をした結果、地域課題の解決につながればいいと思う。</p>
柴原委員	<p>ありがとうございます。他に何か質問あるか。無ければ以上で（1）は終了とする。</p> <p>（2）その他に関して事務局からお願いします。</p>
日程調整	
事務局	次回は、3月2日 13：30から開催とする。
柴原委員長	議題は以上となる。以上をもって議事終了とする。
事務局	何か質問等あれば、後日でも連絡してください。

発言者	発言要旨
山口委員	資料9の第2条(2)について計画と報告の年2回、行政からの説明を聞いたらいいか。
事務局	計画が3年から4年になったことから、1年毎ではなく、4年を通してみていかなければならないものだと思う。年に2回、企画、計画の説明とその報告をして、その年の事業について意見をいただければ、次年度へつながっていくと思っている。計画作成の29年度は3～4回会議を持って議論が必要だと思う。それ以外の年は2回程度と考えている。
有北委員	懇談会という形式以外でも、しっかりと区民の意見を聞く場を増やしてほしい。市の社会教育委員も務めているが、2月に起こった中学生の事件に対して真剣な議論を自主的に集まってやっている。区によっては、地域教育会議や委員会などでもその事件について議論するために集まってきていると聞いている。今回、このような話題は出ていないが、多摩区でも母親が乳幼児に対して悲惨な事件も起きている。区民が意見を出せる場をもっと増やしていくべきではないか。
柴原委員	地域福祉計画は意見を吸い上げて、実施するとなっている。多摩区もいろいろな活動をするようになった。そのことは地域のすばらしさだとも感じている。
事務局	委員や区民の意見を伺って策定した計画に基づいてやらせていただいている。いろいろな意見がありそれを参考にしながらより良い事業を行っていきたいと考えている。忌憚のない意見をいただきたい。
青木委員	データの出し方に対して要望がある。今回出してもらったデータは神奈川県も多摩区もあまり違いがわからないので、多摩区では今こういう状況になっている、こんな問題があるということを教えてもらえると他の人にも話しやすくなり、人材育成でも求めている人材をはっきりと提示できるようになるので、多摩区の状況がわかるようなデータを出してもらいたい。
事務局	貴重な意見、ありがとうございました。今後、われわれの事業に反映させていきたいと考えます。会議、以上で終了します。